



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hoyukai.org/>

第183号

発行:2021年7月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

感染管理認定看護師としての取り組み



湘南泉病院 感染管理認定看護師 門馬 みゆき

感染管理認定看護師は院内の感染リスクを低減するために感染対策チームのメンバーと協働し活動しています。

昨年は感染管理認定看護師1年目の私にとって、新型コロナウイルス感染症の流行により、責任ある仕事が一気に舞い込み、目の前にある事を手探りでこなしている状態でした。

本来の感染管理認定看護師の主な役割としては、疫学、微生物学、感染症学、消毒と滅菌、関係法規などに関する専門的知識を基盤に施設の状況に合った効果的な感染管理プログラムを構築し、病院に係る全ての人を感染から守る事です。

＜活動内容としては＞

院内における感染リスクを低減するために、「実践」・「指導」・「相談」の3つの内容に則って、施設に合った効果的な感染管理プログラムを構築し患者・職員等病院に関わる人を感染から守るための体制を整えることです。

7つの感染プログラムとして

- ① 感染管理システム
- ② 医療関連感染サーベイランス
- ③ 感染防止技術
- ④ 職業感染管理
- ⑤ 感染予防・管理に関する指導
- ⑥ 感染予防・管理に関する相談
- ⑦ 洗浄・消毒・滅菌、ファシリティマネジメント

感染対策は組織的に取り組む事が不可欠なため、全ての職員が徹底して感染対策に取り組めるような

体制作りを行なう必要があります。そのため、院内の職員と協働し、組織横断的に活動を実施しています。

また、効果的な感染対策を現場で実施出来ているかを把握する必要があるため、ラウンドをして現場の状況確認を実施しています。

その他にもPPE（個人防護具）の着脱指導と感染教育を実施し、ICTリンクスタッフへ感染対策に対する指導・教育を勧め、各セクション職員への分散教育を実施しました。全職員の意識・行動変容の困難はありましたが、現在ではマスク・フェイスシールド着用が勤務中での標準防備となり、また個人持ちのアルコール消毒剤についても、忘れずに身に付けて使用しているスタッフを見るたびに、感染対策における意識の変化にとっても嬉しく思うと同時に病院としても感染対策が大きく進歩していると実感しています。

また、感染管理認定看護師は、地域連携も重要な活動の1つです。今後は地域周辺の施設との連携も大切にし、地域全体の感染対策を図れるようにしていきたいです。

新型コロナウイルス感染症対策で、世の中の生活様式が変化したこの1年。感染対策は1人ではできません。院内感染のリスクを低減させる為に、全職員の感染管理の合言葉として「持ち込まない、持ち出さない、拡げない」を徹底し、職員が安心して働く事が出来る職場環境を整え、患者さんに安全で質の高い医療を提供していきたいです。



新型コロナワクチンQ&A Part2

先月号に引き続き、新型コロナワクチンについての疑問等を厚生省ホームページからQ&A方式で抜粋させていただきました。



Q ワクチン接種後に新型コロナウイルスに感染することはありますか。



A ファイザー社の新型コロナワクチンは、通常、3週間の間隔で2回接種します。最も高い発症予防効果が得られるのは、2回目を接種してから7日程度経って以降です。体の中である程度の抗体ができるまでに1~2週間程度かかるため、1回目の接種後から2週間程度は、ワクチンを受けていない方と同じくらいの頻度で発症してしまうことが論文等でも報告されています。また、臨床試験においてワクチンを2回接種した場合の有効率は約95%と報告されております。

モデルナ社の新型コロナワクチンは、通常、4週間の間隔で2回接種します。臨床試験において本ワクチンの接種で十分な免疫が確認されたのは、2回目を接種してから14日以降となります。また、ワクチンを2回接種した場合の有効率は約94%と報告されております。



Q 副反応は1回目の接種後より2回目の接種後の方が強いと言われるのはどうしてですか。



A 1回目のワクチン接種でいくらか免疫がつくことで、2回目の接種の方が、免疫反応が起こりやすくなるため、発熱や倦怠感、関節痛などの症状が出やすくなります。



Q 過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがあり、今回も起こすのではないかと心配なのですが、接種を受けても大丈夫でしょうか。



A 食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性鼻炎や花粉症、じんま疹、アレルギー体質などがあるといった理由だけで、接種が受けられないわけではありません。また、接種するワクチンの成分に関係のないものに対するアレルギーを持つ方も接種は可能です。ただし、これまでに、薬や食品など何らかの物質で、アナフィラキシーなどを含む、重いアレルギー反応を起こしたことがある方は、接種直後に調子が悪くなったときに速やかに対応ができるよう、接種後、通常より長く(30分間)、接種会場で待機していただきます。

過去にアレルギー反応やアナフィラキシーを起こしたことがある方は、予診票にご記入いただくとともに、原因の医薬品等やその時の状況をできるだけ詳しく医師にお伝えください。重いアレルギーで医療機関にかかっている場合には、接種の可否について事前に相談することをお勧めします。



Q ワクチン接種の証明書は発行されますか。



A 接種を受けた後、接種を受けた日付・場所と接種したワクチンの情報が記載された接種済証が発行されます。この接種済証を見れば、いつ、どこで、どのワクチンを接種したのかが分かります。

